

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 44
2019.12

TOPICS

1

カナダ・ヨーク大のチャールズ・ホプキンス教授に 名誉博士号を授与



本学は11月22日、カナダ・ヨーク大学のチャールズ・ホプキンス教授に岡山大学名誉博士の称号を授与しました。

同日、ESD教師教育世界大会の開会式に行った授与式では、国内外の研究者や教育者ら約160人が見守る中、榎野博史学長が名誉博士記をチャールズ・ホプキンス教授に手渡しました。

名誉博士の称号は学術文化の発展への貢献が特に顕著であり、本学において顕彰することが適当と認められた方、または、本学における教育研究の発展への貢献が顕著な方を顕彰するものです。チャールズ・ホプキンス教授は持続可能な開発のための教育(ESD)の世界的権威であり、岡山大学のSDGs 推進にも多大な協力をされています。今回、学術文化の発展への貢献が特に顕著であることから名誉博士の称号を授与することとなりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8932.html



TOPICS

2

アイスホッケー部(女子)が「日本学生女子アイスホッケー大会」で 2年連続の準優勝！

11月7～10日、「第7回日本学生女子アイスホッケー大会」が開催され、本学アイスホッケー部(女子)が昨年に続き準優勝しました。

本大会には、地区予選を勝ち抜いた全国の16大学が出場。4ブロックで予選リーグが行われ、それぞれのリーグを勝ち抜いた日本体育大学、東京女子体育大学、琉球大学と本学の4校が決勝トーナメントに進みました。準決勝の琉球大学戦では、1対1の同点のまま試合と延長戦を終え、ゲームウイニングショットまで持ち込んだ結果、2対1の接戦で勝利。決勝では、日本体育大学に挑みましたが、大会4連覇中の王者の壁は厚く、1対10で敗れました。キャプテンの米田舞さん(教育学部3年)は「これまでの先輩方の背中を追い続けた結果が今年の成績につながったと思います。これからも岡大らしさを大切に、更なる高みを目指して日々精進していきます」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8979.html



Pick up!

国吉康雄記念講座が岡山市文化奨励賞を受賞



教育学研究科寄付講座「国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座」が岡山市文化奨励賞の芸術部門に選ばれ、11月25日、岡山市役所で行われた表彰式に出席しました。同講座は学校や市民と協同してアートイベント、ワークショップなどを開き、芸術文化の振興に貢献したことが評価され、この度の受賞となりました。

式では、大森雅夫岡山市長から伊藤駿助教、櫛田みつ子さん(文学部4年生)、菊野智慧さん(同)に表彰状と記念のレリーフが手渡されました。同講座の才士真司准教授は「世界的に高く評価される地域の文化芸術資源(国吉康雄コレクション)について、大学が研究するだけでなく、その運用を学生と共に地域市民、行政、企業などと協働で行うというスタイルを評価いただいた。こうした取り組みは他に例がなく、岡山の地域力を総合的・学際的に活用した岡山大学独自のものといえます」と受賞の喜びを話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8933.html



TOPICS

3

フライングディスクを使ったスポーツ「アルティメット」の 全国大会に本学同好会「BLACK HAWK」が初出場！

11月2～3日、「第2回全日本U21アルティメット選手権大会」の西日本予選が開催され、本学同好会の「BLACK HAWK」がメン部門(性別不問)で第4位に入り、初の本戦出場を決めました。

アルティメットとは、1チーム7人で敵、味方に分かれて得点を競うスポーツです。コート内で一枚のフライングディスクを投げ、パスをつないでエンドゾーンを目指し、エンドゾーン内でディスクをキャッチすれば得点が入ります。

本戦は12月14日に開催され、1勝2敗で6位となりました。主将の田賀大資さん(工学部2年)は、「予想以上に全国のレベルは高く、それを肌で感じることができました。この大きな舞台で強いチームと戦えたことは、私たちにとって大きな財産になったと思います。この経験を活かし、今後の練習もより頑張っていきたいと思います」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8962.html



TOPICS

4

SDGsの普及・推進に携わる「SDGsアンバサダー」の ミーティングを実施



12月12、16日、創立五十周年記念館で、SDGsアンバサダーによるミーティングを開催しました。参加者は、環境問題を含むさまざまな課題、SDGsの国際的な動向、課題解決を図る思考法などを学んだ後、グループディスカッションを行いました。

12日のディスカッションのテーマは「自分たちが学生にSDGsを啓発するためにはどのようなことができるのか」、「入学式で、各学部の専門を交えたプレゼンをアンバサダーが行ってみてはどうか」、「SDGsの授業やレポートを実施する。インセンティブとして単位が出ればなお良い」などの意見が上がりました。16日のテーマ「自分たちがやりたいSDGs活動を実現するためにはどうすればよいか」では、「研究にSDGsのラベル付けを行う」、「周りを巻き込むためにメリットを示せると良い」、「まずは自分たちのやりたいことをやってみる。それからSDGsにつなげていく」などの意見がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8978.html

PRESS
RELEASE

筋ジストロフィーに合併する心筋症発症のしくみを解明 ～心機能を改善する新しい治療法の道筋をひらく～



片野坂講師

氏原客員研究員

大学院医歯薬学総合研究科(医)の片野坂友紀講師と同大学客員研究員の氏原嘉洋博士(当時・川崎医科大学講師;現・名古屋工業大学准教授)は、神戸大学大学院医学研究科の金川基講師および川崎医科大学の研究グループと共同して、筋ジストロフィーに合併する心筋症発症のしくみを解明し、心機能を改善する新しい治療薬候補を開発しました。筋ジストロフィーに合併する心筋症の治療に新たな選択肢を供給することへつながる道筋をひらくものと考えられます。これらの研究成果は12月17日、英国の総合科学雑誌「Nature Communications」電子版にArticleとして掲載されました。本研究成果は、筋ジストロフィー症に苦しむ数多くの人を救う新たな治療方法を提案するだけでなく、広く心不全や骨格筋病態を対象とした治療研究に対しても、重要な起点となることが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id687.html

